

# 資産運用業務の確立 地銀の挑戦

## 地域内の資金循環を促進する

## アセットマネジメント業務の確立を急げ

地域専用ファンドやミニ公募地方債は、地域金融機関の有力業務になりうる

一九九八年一二月に投信窓販が解禁されて以後、地域金融機関はニューフロンティアである資産運用業務の確立に積極的に取り組んでいる。しかし、地域金融機関ならではの独自性を発揮しない限り、大手行や証券会社と伍して競合していくのは困難であろう。地域金融機関が同業務で重視すべきポイントとして、八代氏は「地域内資金循環の形成・促進」という視点が重要と強調、それが、地域金融機関の新しい経営モデルの確立にもつながると説く。

(編集部)

八代アソシエイツ

代表 八代 恭一郎



### 地元の資金は 地元で循環させるべし

景気低迷に伴う企業の業況悪化、金融機関における信用リスク管理の強化を背景に、大半の地域金融機関では近年、地元で吸収した資金を地元で貸し出す

ことがむずかしくなっており、預貸率の低下が深刻化している。また、預貸金業務の収益性自体も低下している。こうした状況を克服すべく、地域金融機関は公社債への投資を活性化させるとともに、代替投資による余資運用の強化、信用リスクが

従来よりも高い層を対象とした  
新型ローンの投入、シンジケート  
ローンへの参加、県外進  
出による新たな貸出マーケット  
の開拓などに取り組んでいる。  
しかし、公社債等の有価証券  
運用でも価格変動リスクを抱え  
ざるをえないし、代替投資につ

いても仕組みが複雑なことから  
リスクを的確に評価できないな  
どの問題を抱えており、こうし  
た貸出金以外の余資運用もそれ  
ほど拡大できない側面がある。  
新型ローンや県外融資も事態を  
打開するほどの規模に成長して  
いるわけではなく、あくまでも

# 「ローカルな資金の担い手」を 目指す静岡銀行

## 地域専用ファンドで資産運用業務の構築へ橋頭堡

静岡銀行と静銀ティールエム証券は四月一日、本邦初の特定地域経済のインデックスとなる投資信託「静岡ベンチマーク・ファンド」の販売を開始した。静岡経済の動向を反映する特徴をもつこのファンドを通じ、静岡銀行グループは投資信託の浸透と同時に、地域に貢献する「ローカルな資金の担い手」を目指している。

### 全国初のパッシブ運用型 地域専用ファンド

静岡ベンチマーク・ファンドの特徴と狙いは、①ファンドの基準価額が静岡経済の指標となることを目指す、②静岡県下の企業への間接的な資本供給を通じて、静岡企業の支援・育成を

図る、③静岡県民の親近感・安心感を得られるファンドを目指す、の三点にある。

投資対象銘柄は、本邦の証券取引所の上場株式と店頭登録株式のうち、静岡県内に本社をおいている企業あるいは静岡県に進出し一定規模の雇用を創出している企業の株式。流動性や投

資リスクを考慮しつつ、原則として対象となる企業のうち時価総額の上位約七〇社をすべて組み入れて投資し、市場全体の値動きと同じ運用成果を目指す、いわゆる「パッシブ運用」を行う投資信託だ。

県内企業については、それぞれの時価総額に応じた比率で投

資をし、進出企業については、時価総額と静岡県内での従業員数など静岡県との関連度合いを考慮して銘柄を選定、それぞれの時価総額に応じた比率に一定値を乗じた修正時価総額の順にファンドに組み入れる。つまり、ファンド自体が静岡経済の指標としての動きを示すことに